



秋田県遊技業協同組合 「コロナ感染予防対策 (秋田市小中高全児童へ マスク42,000枚を寄贈)」事業



秋田県遊技業協同組合
理事長
松岡信吉さん

児童・生徒たちが 安心して学校生活を 送れるようにコロナ予防の マスクを寄贈

秋田市内の小中高に通う児童・生徒に 1人あたり2枚のマスクを寄贈

2020年から新型コロナウイルスの感染拡大により、歴史上あまり経験することのなかったパンデミックに、改めて感染症の恐ろしさを思い知らされたというのが実情だろう。遅ればせながらワクチン接種が進むなかで、何とか収束に近づいて欲しいと国民の誰もが願っているに違いない。

決定的な治療薬が開発されていない今、感染対策として掲げられているのは、不要不急の外出や「三密」の回避、手指の洗浄、そしてマスクの着用などだが、なかでもマスクは、飛沫感染を基本とするコロナウイルスに対し、飛沫が飛ぶのを防ぎ、また口や鼻などからの飛沫の浸入を防ぐという意味で感染予防効果が高いと期待されている（ただし、不織布などマスクの性質にもよる）。

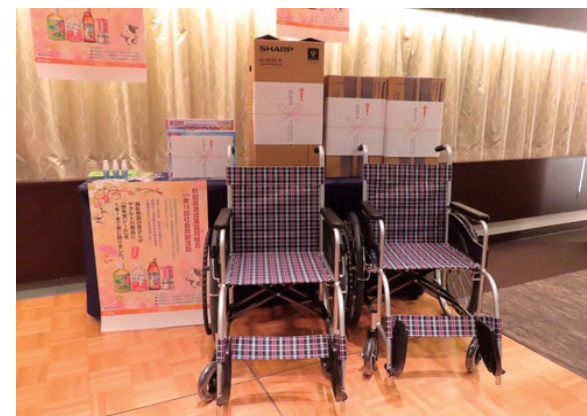
ところが、そのマスクが大幅に不足しているという事態が2020年の春、日本で起きた。苦肉の策として、政府は原則、全世帯に2枚ずつガーゼ製の布マスクを配布することになったのだが、秋田県遊技業協同組合（以下、秋遊協）ではさらに、将来を担う児童生徒に対する健全育成、および新型コロナウイルスの感染予防を目的に、秋田市内の小中高の全児童・生徒に、1人あたり2枚のマスクが行き渡るよう、42,000枚のマスクを寄贈することにした。このマスクは、秋田県教育委員会を介して、秋田市内の計67校の学校に通う児童・生徒に届けられた。



秋田市役所で行われたマスクの贈呈式



マスクの寄贈に対し、市長から感謝状が贈られた



県内の福祉施設に車いすを毎年寄贈

行政機関などとの日頃の連携から 実現した社会貢献活動の事例

今回の事業は、新型コロナ感染症拡大の初期段階から、秋遊協の執行部会において「組合員ホール以外でも、社会貢献活動の一環として児童・生徒を対象にした感染抑止対策が必要ではないか」との提言を受け、日頃から連携を図っている行政側からの要望である「品不足にあるマスクの寄贈」という声に応えるために行われたものである。

2020年7月2日に行われた贈呈式では、秋遊協の松岡信吉理事長、新井泉副理事長らが出席し、穂積志秋田市長に目録が渡された。その際、理事長は「秋田の宝である子どもたちの力になればいい」と話し、市長からは「子どもたちの感染予防に役立てたい」と感謝の言葉があった。その模様は市広報や地元紙、NHKやローカル局などで報じられ、それを見た市民から高い評価を受けたほか、寄贈を受けたある学校の校長から、「子どもたちにとって、改めて地域にどのように貢献していくかを考えるよい機会をいただいたものと考えております」との礼状をいただいた。

今回のマスク寄贈は、行政や教育機関、福祉関連団体などと平素から密接に連携を取っていることから実現したものだが、例えば秋遊協では毎年、県内の社会福祉協議会が選定した福祉施設6カ所に車いすを2台ずつ計12台寄贈している（継続12年）。また、2019年には、秋田中央遊技業協同組合と連名で「災害時における支援協力に関する協定」を秋田市と締結し、災害時に組合員ホールの駐車場スペースを緊急車両の待機場所および一般車両の一時避難場所として提供するほか、店内のトイレの貸し出しや飲料水を提供することなどを取り決めている。また、あわせて秋田市の災害時用の備蓄品としてエアーマット20台も寄贈している。